

1997年に世界で過去最高となる約600万個売れた“Gショックブーム”から16年、日本では今ひとつと言ったイメージだが2014年度はそれを上回る650万個が出荷される見通しとなり、カシオは“第二次Gショックブーム”に沸いている。しかも83年にGショックが誕生して以来ちょうど「30周年」での快挙となった。

理由は簡単だ。今をときめく「クールジャパン」戦略である。米国、ロシア、アジア、南アメリカでの若者たちの中で「かっこいい！」と人気絶大なのである。もともとこの安価なクォーツ時計は、スイスの高級腕時計に対し、日本のエレクトロ技術を詰め込み独自の市場を開拓しようとしたものである。

言うまでもなくクォーツは水晶のことだが、圧電体であるこの鉱石に交流電圧をかけると一定の周期で規則的に振動する。この原理を応用した“水晶振動子”を用いて動くのが昔の振り子時計に代わるクォーツ時計なのだ。ダイヤモンドなど他の宝石に比べ地味な印象の水晶は、どっこい日本の屋台骨支えているのだ。

実は聖書の最終章にはキリストが統治する首都「天のエルサレム」が出現するが、そこにメガトン級の水晶が出てくる。

**「その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でできていた。都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髄、第四はエメラルド、第五は赤縞めのう、第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九はトパーズ、第十は緑玉髄、第十一はヒヤシンス石、第十二は紫水晶(アメシスト)であった。」ヨハネの黙示録 21 章 18-20 節、**

とあるが、何と城壁自体が水晶で出来ており、しかも12の土台石の半分が水晶系（玉髄）の宝石なのだ。何とありがたい話だろうか。豪華な宝石にはとてもかなわなく見えるこの石が、最後の最後になって仁王立ちするのである。風化にも強い水晶はパワーストーンの花形

でもあるのが頷ける。厳しい風の吹きまくる今の日本が、どんなショックにもめげず、キリストの光を浴びて水晶のように輝き、最後に笑う者となってほしい。

2014-1-9

